

## I 実践

### 1 実践テーマ

自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる生徒の育成

### 2 活動目標

- (1) 人間の尊さを理解し、差別や偏見のない明るい生活が送れるようにする。
- (2) 人権感覚や人権意識を高め、差別や偏見をなくし、誰もが生きがいのある生活を送ることの大切さを理解し、認識できるようにする。

### 3 実践内容

#### (1) 学校教育全体を通じた実践

##### ア あいさつ運動

生徒会や JRC 委員会を中心に委員会や学級で時期を決め、年間をとおして「朝のあいさつ運動」を行った。また、「さわやかマナーアップあいさつ運動」では、学区の小学校2校へ出向きあいさつ運動を行った。生徒同士だけでなく、地域の方にあいさつをすることで、地域の方と豊かな人間関係を形成する機会とした。



【中学校でのあいさつ運動の様子】



【小学校でのあいさつ運動の様子】

##### イ 人権尊重のポスターの掲示

人権啓発ポスターを昇降口等、生徒の目に入りやすい場所に掲示し人権意識の啓発を図った。

##### ウ 夏休みの課題の募集

人権について考える機会として、夏休みに人権作文や書道コンクール等の募集をした。

##### エ 各種調査

Q-U テストの結果分析や毎月の生活アンケートをとおして、いじめや学校生活に関する悩み等を把握し、個に応じたきめ細かい指導に努めた。

##### オ 生徒指導部委員会の開催

週一回生徒指導部委員会（校長、教頭、生徒指導主事、各学年生徒指導担当、特別支援コーディネーター、養護教諭）を開き、いじめや問題行動について情報交換を行った。共有した情報や検討した内容を各学年に伝達することで、全職員で共通理解ができるようにした。

##### カ ボランティアへの参加の呼びかけ

6月と10月にボランティア活動の一貫として宮田川清掃を行った。2回とも多くの生徒が参加し、熱心に取り組んでいた。その他にも「なかまるしえ」や「敬老会」、「元気っ子体験村」などの学区ボランティア活動をとおして、奉仕する心や協力し合う態度を養う機会となった。



【元気っ子体験の様子】



【宮田川清掃の様子】



【敬老会の様子】



【なかまるしえの様子】

キ 3年生を対象に「命の教室」を実施した。講師の先生を招き、生命の誕生や性感染症についての話、「これからの自己の生き方」について講話をいただいた。



【命の教育の様子】

## (2) 授業における実践 (社会科)

### ア 単元名

私たちの暮らしと経済

### イ ねらい

日本の労働と雇用の特色や課題を調べることとおして、非正規雇用者や外国人労働者の増加など、雇用に関する課題について考えることができる。

### ウ 内容

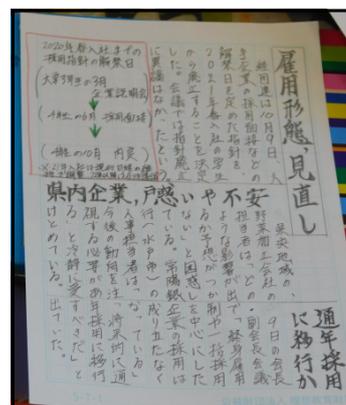
雇用に関する新聞記事をもとに、日本の労働や雇用の特色や課題について調べ、「はがき新聞」にまとめる学習を行った。また、個人で作成した「はがき新聞」をもとに、グループ内で記事を伝え合い、グループで新聞の一面記事を作成する活動を取り入れた。グループ活動では、どの記事を「頭」(一面の構成「頭」「肩」「へそ」のトップ記事にあたる)にするか、見出しをどうするかなどを、考える展開にした。

### エ 活動の様子

家庭で新聞を購読しているのは6割程度で、購読していても、全く読まない生徒も合わせると5割になる。そのため、新聞を読むことに慣れておらず、テーマに合った新聞記事を見つけることに苦労していた。

しかし、7社の新聞の中から苦労して選択した記事を根拠に「はがき新聞」を作成したことで、グループでの話し合いでは、自信をもって自分の考えを発表していた。

また、グループで作成した新聞には、「非正規労働者は正規労働者と比べて賃金が低い」こと、「雇用調整」の対象になりがちで専門技能を身につける機会が少なく、転職しづらいこと、「外国人労働者の労働環境や雇用条件」など、人権に関わる課題を解決すべきであるという意見が多くみられた。雇用をとおして「女性」「障害者」「高齢者」「学生」「LGBT」「働き方改革」など、様々な課題に触れていた。



【はがき新聞の例】



【活動の様子】

## 4 成果

教育活動全体をとおして人権意識の育成を図ってきた。年間をとおしたあいさつ運動により、生徒の方から元気にあいさつができるようになった。また、教師と生徒間だけでなく、生徒同士でもあいさつをする姿が増えてきた。

授業実践では、道徳や学級活動、社会科などをとおして、生徒が人権に対する知識や理解を深めることができた。各教科で話し合いを取り入れることによって、周囲の思いや考えを知り、認め合うよい機会となった。

学区内のボランティア活動に積極的に参加することで、地域の人々との絆を深め、地域に住む一人の人間としての自覚を高めるためのよい機会となった。

## II 今後の課題

進んであいさつができる生徒が増えているが、登下校時以外ではあいさつができない生徒もいる。必要な場面でしっかりあいさつをする習慣を身に付けさせなくてはならない。

多くの生徒は、学区内のボランティア活動に積極的に参加している。しかし、積極的ではない生徒もいるので、ボランティアへの参加や募金への協力など、趣旨をよく説明した上で、継続して呼びかけていく必要がある。

また、人権について授業で話し合った内容を実生活に生かせるように、生徒が自分事として考えられる題材の選択と授業展開を研修していきたい。